

薬剤の使用に際しては、必ず商品の説明書をよく読んで、記載内容に従ってお使いください。

最新の適用病害虫名・対象作物名については、[メーカーのホームページ](#)をご参照、または、お問い合わせください。

(こちらに掲載している内容は、2025年4月現在の内容です)

ベニカベジフル乳剤

有効成分：ペルメトリン…3.0%

農林水産省登録 第23948号

※印は収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫前の日数と本剤及びその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

作物名	適用害虫名	希釀倍数	使用液量	使用時期※	総使用回数※
トマト					3回以内
ミニトマト	オンシツコナジラミ、アプロラムシ類	300～450倍		収穫前日まで	本剤：3回以内 ペルメトリン：4回以内（但し、株元散布は1回以内、散布及び噴射は合計3回以内）
きゅうり	オンシツコナジラミ、アプロラムシ類、ウリハムシ				3回以内
ズッキーニ	アプロラムシ類、フキノメイガ	300～450倍		収穫7日前まで	本剤：3回以内 ペルメトリン：6回以内（但し、乳剤は3回以内、粒剤は3回以内）
すいか、メロン、かぼちゃ	アプロラムシ類		100～300 mL/m ²		5回以内
なす	アプロラムシ類				3回以内
	オンシツコナジラミ、テントウムシダマシ類、カムシ類	300倍			
ピーマン	アプロラムシ類	300～450倍			5回以内
	タバコガ、カムシ類	300倍			
とうがらし類	アプロラムシ類	300～450倍		収穫7日前まで	2回以内
	タバコガ	300倍			
ばれいしょ	アプロラムシ類、テントウムシダマシ類		300～450倍	収穫14日前まで	4回以内
やまのいも	アプロラムシ類、ヤマノイモガ、アザミウマ類			収穫7日前まで	5回以内
さといも	ハスモンヨトウ	300倍		収穫7日前まで	

	アブランシ類	450 倍					
さといも(葉柄)	ハスモンヨトウ	300 倍		2回以内			
	アブランシ類	450 倍					
	かんしょ イモガ				5回以内		
オクラ	ハスモンヨトウ、アブランシ類、カメシ類	300 倍		収穫前日まで	3回以内		
	つるむらさき ヨトウムシ			収穫 7 日前まで	2回以内		
食用ゆり	アブランシ類	450 倍		収穫前日まで	5回以内		
食用亜麻	ヨトウガ	300 倍		収穫 14 日前まで	2回以内		
ごま	アブランシ類			収穫 3 日前まで	3回以内		
しゅんぎく	アブランシ類、ハクサイダニ	600 倍		収穫 21 日前まで	2回以内		
とうもろこし	アワノメイガ	300 倍		収穫 14 日前まで	4回以内		
	アブランシ類	450 倍		収穫前日まで	5回以内		
いちご	アブランシ類			収穫 7 日前まで			
ごぼう				収穫 14 日前まで	2回以内		
葉ごぼう					本剤：5回以内 ペルタルン：5回以内（但し、株元灌注は2回以内）		
キャベツ	アオムシ、コナガ、アブランシ類、ヨトウムシ、タマネギソウワバ	300 倍		収穫 3 日前まで			
はくさい	アオムシ、コナガ、アブランシ類、ヨトウムシ			収穫 7 日前まで	5回以内		
だいこん	アオムシ、コナガ、ヨトウムシ、ハイマダラノメイガ	300~450 倍		収穫 30 日前まで	4回以内		
	アブランシ類			収穫 7 日前まで	3回以内		
茎ブロッコリー	アオムシ	300 倍		収穫 3 日前まで	5回以内		
ブロッコリー、カリフラワー	コナガ			収穫前日まで	3回以内		
非結球あぶらな科葉菜類(非)	アブランシ類	300~450 倍					
	アオムシ	300 倍					

結球はくさい、みずな、なばな類を除く)							
なばな類	アオムシ、コナガ						
みずな	アオムシ	450 倍					
	アブ ラムシ類、ダイコンハムシ、ヤサイゾウムシ						
非結球はくさい	アオムシ	300~600 倍					
レタス	アブ ラムシ類、ヨトウムシ	300~450 倍	収穫 7 日前まで	5 回以内			
リーフレタス				2 回以内			
トレビス	アブ ラムシ類	450 倍		3 回以内			
たまねぎ	アザミウマ類、ネコガ、ハスモンヨトウ			5 回以内			
ねぎ	アザミウマ類、ネコガ	300 倍		3 回以内			
	シロイチモジ ヨトウ						
にんにく	アブ ラムシ類	300~450 倍	収穫前日まで	本剤：2 回以内 ペルトリン：4 回以内（但し、乳剤は 2 回以内、粒剤は 2 回以内）			
アスパラガス	ジュウシホシクビナガハムシ						
	ヨトウムシ、アブ ラムシ類						
	カムシ類						
豆類(未成熟、ただし、未成熟そらまめ、さやえんどうを除く)	アザミウマ類、アブ ラムシ類、ハモグリバエ類、ヨトウムシ類、ウラナミジミ、アズキノメイガ、マメンクイガ	450 倍	収穫 14 日前まで	3 回以内			
未成熟そらまめ	ナモグリバエ、ヨトウムシ類、ウラナミジミ			3 回以内			
さやえんどう							
ほうれんそう	アブ ラムシ類、ハクサイダニ		収穫前日まで				
			収穫 14 日前まで	2 回以内			

だいす	マメシクイガ、ジヤガイモヒゲナガ アブラムシ			収穫 7 日前まで	3 回以内
あずき	アズキノメイガ	300 倍			
そらまめ	アブラムシ類	450 倍			
しそ	ハスモンヨトウ、アブラムシ類、アザミ ウマ類、コナジラミ類、バッタ類	600 倍		収穫前日まで	本剤：2 回以内 ペルメツン：4 回以内(但し、乳剤は 2 回以内、粒剤は 2 回以内)
なし	アブラムシ類、シンクイムシ類	300～450 倍		収穫前日まで	2 回以内
	ハマキムシ類、カメムシ類	300 倍			
もも	カメムシ類			収穫 7 日前まで	6 回以内
	シンクイムシ類、アブラムシ類	300～450 倍			
	モモハモグリガ	300～600 倍			
	ハマキムシ類	450 倍			
ネクタリン	カメムシ類	300 倍	200 ～ 700 mL/m ²		3 回以内
	シンクイムシ類、アブラムシ類	300～450 倍			
	モモハモグリガ	300～600 倍			
うめ	アブラムシ類	450 倍		収穫前日まで	2 回以内
かき	カキノヘタムシガ、チャノキイロアザミウ マ、カメムシ類	300～450 倍		収穫 7 日前まで	5 回以内
	カキクダアザミウマ	300 倍			
キウイフル ツ	キイロマイコガ	300～450 倍		羽化脱出期 但し収穫 14 日前 まで	6 回以内
	カメムシ類	300 倍			
くり	クリタマバチ	150～300 倍		収穫 14 日前まで	6 回以内
	クリシキゾウムシ	300 倍			
かんきつ	ミカンハモグリガ、アブラムシ類	300～600 倍			
	チャノキイロアザミウマ	300～450 倍			

	カムシ類	300 倍			
いちじく	アザミウマ類、アプロラムシ類			収穫前日まで	2回以内
	仔ジケヒトリモスキ	450 倍		収穫 7 日前まで	
はまなす(果実)	シクイムシ類	300 倍		収穫 14 日前まで	
さるなし	キロマイコガ			収穫 3 日前まで	
アロニア	シクイムシ類	450 倍			
ハスカップ	ハマキムシ類、アプロラムシ類	300~450 倍			
茶	チャノコカクモンハマキ	300 倍	200 ~ 400 mL/m ²	摘採 14 日前まで	1回
	チャノミドリヒメヨコバエ、チャノホソガ、チャノキロアザミウマ	300~450 倍			
花き類・観葉植物(はぼたんを除く)	アプロラムシ類	300~600 倍	100 ~ 300 mL/m ²	発生初期	6回以内
	カムシ類、ハマキムシ類、ヨトウムシ類	300 倍			
はぼたん	アプロラムシ類	300~600 倍	600 ~ 1200 倍		
	カムシ類、ハマキムシ類、ヨトウムシ類、アオムシ	300 倍			
樹木類(くちなしを除く)	ケムシ類、アプロラムシ類、シャクトリムシ類	200 ~ 700 mL/m ²			
くちなし	ケムシ類、アプロラムシ類、シャクトリムシ類				
	アザミウマ類	300 倍			

使用方法：散布

- 2024年5月29日付：しその変更。
- 2022年8月30日付：なばな類、ミニトマト、しそ、非結球あぶらな科葉菜類（しろな、みずな、なばな類を除く）の変更。しろなを非結球はくさいへ統合。
- 2020年7月8日付：非結球あぶらな科葉菜類（しろな、みずな、なばな類を除く）の追加、しろな、みずな、ほうれんそうの変更。
- 2020年6月18日付：しろな、みずなの変更。
- 2019年11月6日付：てんさいの削除。
- 2019年5月15日付：キャベツ、ズッキーニ、にんにくの変更。
- 2018年3月28日付：しその変更。

●効果・薬害等の注意

- 使用の際は容器を数回振ってから所定量を取り出す。
- ねぎのシロイチモジヨトウの防除に使用する場合は、食入前の若令幼虫期に散布する。
- かんきつ、茶での散布は、場合によりハダニ類が増えることがあるので注意する。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用する。なお、病害虫防除所または販売店等と相談することが望ましい。

●安全使用上の注意

- 体調のすぐれない時は散布しない。
- 誤飲に注意。誤って飲み込んだ場合は吐かせないで、直ちに医師の手当を受ける。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受ける。
- 散布液調製時には保護メガネを着用して薬剤が眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける(原液は刺激性)。
- 皮ふに付着しないよう注意。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とす(原液は刺激性)。
- 散布時は農薬用マスク、手袋などを着用する。散布液を吸い込んだり浴びたりしないよう注意し、作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。
- 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に關係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。
- 蚕に長期間毒性があるので、付近に桑園がある所では使用しない。
- ミツバチに対する注意。
 - ①巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しない。
 - ②ミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさける。
 - ③関係機関（都道府県の農薬指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努める。
- 使用後の空容器は3回以上洗浄してから処理する。

薬剤の使用に関する注意事項

適正かつ安全に使用していただくため基本的な注意事項をご案内します。

[薬剤の使用に関する注意事項](#)